

はじめに

Covid-19 の影響は、地域調査の実施について大きな影響を与えた。地理学をはじめ多くの学術研究および教育としての地域調査の実施を難しくしたのである。19 年続いた本地域調査も例外ではない。2020 年度の地域調査の実施は断念した。Covid-19 の影響は2021 年度にもはいつても続いたが、2021 年度は宿泊をなくすることで、感染には十分注意をして実施することとした。幸いにも調査地とした茨城県かすみがうら市の教育委員会およびかすみがうら市立霞ヶ浦中学校の先生方、PTA の方々に協力していただき、地域調査をおこなえることになった。こうして第 20 回となる「地域と教育」の調査地は茨城県かすみがうら市とさせていただいた。

茨城県かすみがうら市は、出島村を 1997 年に改称した霞ヶ浦町と千代田町とが 2005 年に合併し発足した。霞ヶ浦に接し漁業やレンコンなどの栽培をしていた霞ヶ浦町と果樹栽培などが盛んな千代田町とは地域の特色が異なるが、それぞれの地域の特色を継承しながら、新たな地域像を作り上げようとしている。そのような地域を背景として、どのような教育が模索されているのかを調査することが本調査の目的である。調査は 2021 年 11 月に参加大学院生のテーマに応じて現地での調査を実施した。大学から霞ヶ浦中学校まで約 20 km、車で約 40 分なので、アポイントの調査が取れた日程で、日帰りで数日通うことで調査を実施した。

この調査では、関係者の方々からお話をうかがい、貴重な資料を収集させていただいた。今回の調査では留学生の院生が多く、日本の教育を実体験した彼ら彼女らにとって、本調査は日本の教育を理解することに役立ち、自身の研究にもいい影響を与えている。このように調査が実施できたのは、かすみがうら市教育委員会教育長の大山隆雄氏、学校教育課指導室室長の奥沢哲也氏をはじめとする教育委員会の皆様、かすみがうら市立霞ヶ浦中学校校長の塚谷吉行氏をはじめとする教職員の皆様、PTA の皆様のおかげである。このように多くの方々の協力のもとで調査を進めることができた。それにより、今回も報告書をまとめることができた。皆様には心より御礼申し上げます。今回の調査報告が、少しでも地域の教育、人々に還元できれば幸いです。

なお、本報告書は文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（B）（一般）（研究代表者：志村喬（研究分担者：井田仁康他）：課題番号 21H00861）の助成を受けたものである。

2022 年 1 月
井田仁康